

… 雨でも休まず：第133回、第134回 …

### 「若柳・嵐山の森」から

- 活動1：森林整備に注力：7月3日(第一土曜日)：参加費300円  
\* 森林整備班は、つらい・苦しい・楽しい／下草刈りの季節
  - 活動2：里山交流の活動：7月18日(第三曜日)：参加費500円  
\* 園田隊長が暑気払いに流しソーメンを企んでいる。お楽しみに。
- ◎ “必ず申込”ボランティア保険等。T&F 03-3411-1636
- 夏場は、雀蜂に気を付けろ。黒い服装は狙われる。
  - 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。090-7260-8101（緑のダム）
  - 服装：汚れて良い格好、着替え。 足元の滑らない履き物。
  - 持参：保険証の写し。飲料水は絶対に持参 … 熱射病が怖い。

… 豪州のナチュラリスト／Mr、デビッド・ホルムグレンを招聘 …

### 里山を生かした持久的な暮らしの創造

- ・日本大学生物環境工学科の系長研究室から「一緒にやらないか」と持ち掛けられて「森をいかす／FCC事業：持続的な森林経営」の途を探っている当会として、一も二もなく話に乗った。6月5日当日、Mr、Horumgurenを招き、森に案内後、夕方、相模湖町の産業会館ホールでの意見の交換は、6時から時間を忘れての白熱の意見の交換。帰りの列車がなくなるとの声で終了した。
- ・国際的なパーマカルチャ（permanent agriculture?）運動の推進者／Mr、ホルムグレンは、現実的な活動を広めている。彼によると自給性の高い持続可能な生活スタイルは十分可能、消費付け社会への強力な対抗策だと主張する。その主張を良く良く聞いてみれば、馬糞を拾い糞尿を畑に撒き、田圃の草取りをしながら食っていた俺いらの子供の頃の生活そのものだが、食品の自給率が25%になってしまっているわが国の現状からすると痛烈な警告だ。
- ・木材自給率が18%を切ろうとしているわが国の森林事情に照らして彼の主張は、当会のFCC事業と重なる。FCCは、成功せねばならない。

## ● 活動報告1／6月 5日（第一土曜日）；森林整備

- 森緑は、いや増し、気温がグングン上がる快晴。参加者数の確認を失念したが仲間から30人以上の参加と聞いた。

○森林整備班：林境の急登尾根／標高320m付近から西南に300mばかり等高線に沿って今年、新たな協力協約D地区の作業通勤路を開設。一度も手の入っていない30年生の杉林。朝礼後の基地の雑用を済ませて遅れて作業隊を追尾した。

合流して息と汗を整えて尾根を吹き上げる冷風に生気が蘇る。森は、優しい。

午前中でD地区の作業通勤路開設を

終え、午後、沢筋に植えた桂幼木を育てる汗の滴る下草刈り。林内に差し込む緑光。桂幼木が美しく良く育っている。田野口仲間の精悍な顔が凛々しい。天気予報では今年最高の29度になる言っていた。梅雨の晴れ間の暑さにうだって午後は、余り無理しないでおくべしと森林作業班は、下草刈りも早めに切り上げて炭窯広場の木陰での鎌研ぎに勢を出した。

○農園班：預かった農地が広すぎて音を挙げてしまったその農地の隅っこに植えさせて貰った桺の苗木が夏草に覆われている。

「そんなんじゃ駄目じゃない」と言う声に押されて吉田仲間等、6人が取り組んだ。陽の照り返しの中で汗にまみれて働いた。除草後の幼木たちは元気に育っていた。昨年の植樹祭で植え過ぎたこの子たちの嫁入り先の責任がある。あれやこれやで俺いら、除草作業に参加出来ず、申し訳ない。

○竹炭釜班：周到に準備して火を入れた。湿気の高い重い煙りは、煙突からモクモクと順調にふき上がった。窯開きに期待が持てる。



## ● 活動報告2／6月20日（第三日曜日）；里山交流

- 下準備のために前日は森泊まり。夜半に雨で心配したが明けると青空が広がっていた。



・県／企画部との協働です「第8回：緑のダム森林体験学校」のこの日、一般参加・相模湖町・食品連合・武藏工業大学を含む百人以上の熱気に活動は、新たな段階に差し掛かっている。

・活動は整然と進んだ。森林整備班は苦しい楽しい下草刈り。生態系調査班は、早朝の生物調査。造園班は、森林資源を生かす木工品教室。炭焼き班は、竹の切り出しと竹炭出し。溝口相模湖町長も参加。

・体験学校報告：エコ青年隊が企画の核と

事・当会員)と千葉美佐子さん(川崎;幸まちづくり研究会・代表)を伴って斎藤林務課長と山中技官を訪ねた。県林務のお二人は、素晴らしい知恵を貸してくれた。形にして県と協働出来る提案書を出す。

### \*その3、里山を生かした持久的な暮らしの創造：6月5日

- ・表紙で報告したホルムグレン夫妻、糸長教授等、40人ばかりを午後2時半から“若柳・嵐山の森”を案内した。生態系班の篠田・林・藤島仲間、斎藤学校長、鍋奉行班が応援に駆け付けてくれた。篠田・林仲間等、生態系班の深い知識と真摯な説明にこの遠来客から森の中で拍手が沸いた。
- ・Mr、ホルムグレンが「是非とも、日本の伐採技術が見たい」と言い出して斎藤学校長が引き受けたが、Mrsがスカート姿で参加してきたのを見た斎藤学校長は「そんな服装で許さん」と激怒した。遠来の「お客様に申し訳ないから何とか」と頼んだら林道の安全な場所から離れて見ているだけとの条件でOKしてくれた。左利きのMr、ホルムグレンが間伐に果敢に挑戦した。
- ・夕食は、森でと言う事で鍋奉行班(畠・伊藤・研)が臨時出動してくれたが、小雨の降ったり止んだりの悪戦苦闘でも何時もと同様、旨い副菜にお代わり続出で大目に作った大鍋が空になった。
- ・夕方6時からの勉強会は、「同じ釜の飯を食った者同志」の和気あいあいの雰囲気にFSC認証審査員をしている富村周平さんから鍋奉行は、大いに褒められた。日本の伐採技術を体験したMr、ホルムグレンは、斎藤学校長の厳しさ真剣さについて「日本の伐採技術も凄いですが、皆さんの真剣さには驚かされました」と言ったが、改めて日頃の仲間たちの力量の蓄積を感じた。Mrの、そんな事をスッ言える率直な人柄に好感を持った。

### \*その4、県有林：清川管理区26林番見学：6月21日



一見美林でも鹿害で生態系の壊れた森

- ・佐藤好信さん(素材生産者:佐藤草木)から素晴らしい県有林を見た事があると聞いていたのでそれを是非、見たいと県林務：自然環境保全センターの滝沢技官に案内をお願いしていた。約束の21日、「FCC県産材活用班」の倉橋・栗原仲間を誘って宮ヶ瀬ダムからヤビツ峠への林道を26林番に向かった。出かける時は、曇

り空くらいの天候だったが、台風6号が急接近してきてズブ濡れの山行きとなってしまった。

- ・元御料林だった清川管理区26林番は、我々の津久井管理区21林番より少し広い6.9haで、清川26林番林道取り付き口から尾根に上りグルリ2時間の見学行になった。それは、見事な杉・檜の大径木林であった。ところが大問題あり。鹿害である。鹿の食べない東根笹を除いた下草は、完全に食べ尽くされて禿山の杉・檜林。途中、鹿の群れに何度もあったが、鹿に付く山ヒルの沸く森だと言う事で足下から膝部分まで「ヒルアタック」と言う噴霧剤を十分に吹き付けたものの着くわ着くわの「ヒルの大攻勢」に出会った。林道に戻って靴下を脱ぐと倉橋さんなどは余程、ヒルに好かれたと見えて4匹も5匹も足首にぶら下がっており、またこれが吸い付いてなかなか取れないもので剥がし取ると血が吹き出すと言う感じで雨風の伴う全くもって大変な山行となってしまった。

なって「子供の教室・親の教室・武蔵工大の教室」と3班に分けて進めた。子供の教室は、栗林の中で  
エコ青年：辻君たちとネイチャーゲームをしていたが真チャンたちのキヤッキヤッと楽しげな声にはのぼのとしたものを感じた。マコトちゃんのお母さん（川崎市麻生区）から以下のような礼状をもらった。

はじめ嫌がってい息子(真チャン/5歳)もすっかりこの企画のトリコになり、来週もまた行きたいという位に楽しかったようで、親として思わぬ彼の心の成長に驚きました。昆虫に興味を持っていたものの、実際に触る機会がなく、バーチャルの中での知識収集でした。実体験として出来た事を本当に嬉しく感じました。また、12歳の娘(百合穂さん)も間伐体験など夏休み自由研究に更に深く考えてみたいと言っています。母親にとっても子供にとっても、とても良い経験でした。

斎藤学校長による「緑のダム体験学校」は、内容も急速な充実振りを見せている。神奈川県／企画部から岩淵さん等、3人の皆さんも森を楽しんでくれていた。

## ● その他の報告

### \*その1、早稲田町の「ゴミゼロ作戦」を応援：5月30日

早稲田商店会連合会の主催する「ゴミゼロ作戦」に当会と協働する相模湖町の人々と応援に出かけた。午前中は、商店街域内の子供たちと空カンなどのゴミ拾い午後は、道行く人々に森林の大切さや相模湖町の広報。定番の鋸引き体験には、列ができた。津久井うどんの無料試食も大人気。

早稲田町と相模湖町は、丸茂仲間の仕掛けた全国で8つしかない「震災パッケージ：大災害があったら相模湖町が早稲田町の人々を受け入れる仕組み」を提携しており、普段からのこんな付き合いがあってこそ有効に作動する。5時に終了して近所のソバ屋での商店会・相模湖町の人々・緑のダム会員交流会は、森林と都市が直結する良い形で育っている事を示した。

### \*その2、県庁で「県産材推進：森林と都市生活者を直結する活動協議会：準備会」

これまで県の生活環境税制／水源環境の保全再生政策について「県民集会・出前懇談会・環境農政常任委員会・県／企画部など」話し合いを積み上げて来た。神奈川の森林を再生するために県産材を何んとか使う方法はないかとワーキンググループが出来て黒川先生のご指導で4月27日に成功裡に開催した。

第二回目は6月4日、県／林務課も一緒にと言う事で黒川教授のご指導で川上・川下をつなぐ「川上：森林・林業～川下：都市・建築」をどうするかを皆で考えた。県でも13社の製材所が「県産材認証制度」に取り組んでおりこれと我々生活者は、これとも協働すれば良い。これらの事は、勉強だけでは駄目だと実践活動の道に一步踏み出す事とした。

そこで、どのように進めるかを県と相談するために6月16日、倉橋満知子さん(桂川・相模川流域協議会：市民代表幹



森林～都市生活者を直結する活動協議会・準備会

- ・だが、この風雨の中、滝沢さんのご案内は半端では無く、資料を添えての懇切丁寧・誠心誠意には同行の三人、いろんな事を考えさせる事となった。
- ・帰路、滝沢さんの所属する自然環境保全センターには、城山～千木良下山道補修でお世話になった安西課長と前期まで本庁の水源の森林推進課長だった蓮場さんがセンター長になっておられる事からお世話になったお礼に立ち寄る事とした。お二人ともこの風雨に森を見に行った事を驚かれたが、我々に取って収穫の多い素晴らしい一日であった。森には無駄な事は、一つもない。

## 仲間が生み出す森の価値創造力

- ・ 前期は、捨てている木で作った様々な工夫など総収入の18.5%を稼ぎ出した。本期は、30%確保を目標とする。キチンと森にお金を返す心掛け、森を貸して下さる地主さんにも何んらかの形でお払いする事も森の再生の第一歩だ。森の経済性を考える時、何も建築物やバオマスのような大きな課題でなくとも足元の小さな事から始めた方が楽しく、無理なく始められる。問題は、「否定しない事、やろうと思う事、よしやるぞと一步を踏みす行動力、間違ったと思ったら修復する事、そして続ける事」。続けるコツは“楽しく、急がず、無理なく、休まず、ホチボチと”。
- ・ 何時の間にか認証機関から「もう、予備審査を受けてみたらどうか」と言われている。なら、どうするの?…、と22日、認証機関SGS(みなと棟21/ランドマークタワー38F)にFSC推進作業班の篠田主任と行って相談した。いろんな事を話している内に「国際FSCの認証」と言えば行政主導による森林組合か、大学か、製紙会社か、林業専業か大体、プロと言われている人達が取り組んでいる。ところが、緑のダムは全くの素人で都会から月2回、ボランティアの参加で“雨でも休まず、ボチボチと…”とか言いながら本当に台風の嵐でも休まず続けた6年7ヶ月の認証申請だ。認証機関SGSで話だが…、「都会の普通の人々による国際認証の森つくり、面白いじゃないか」「そりゃそうさ、空気や水の問題だもの。普通の人々こそその問題さ」「どうせ認証の取れるところまで来たのだから、認証記念出版と言うのはどう?」「こないだ神奈川新聞が“荒廃の森を救う素人”なんて特集を出してくれたしさ」「分かった。どうせなら日本語版だけでなく、英語版も出して森林問題を世界に問い合わせるってのは、どう?」…てな話になっている。都会から来た森の素人たちが、面白い事を始めている。

## 参加者募集：平塚七夕祭り：7月1日～5日

今年も参加者数があった。5日間も無理、…と言ったら初日と最終日だけ来てくれれば2・3・4日は、平塚側で引き受けるから…と言う事。何んでもやっぱり“列の出来る鋸引き体験”がお目当てだそうだ。木の持つ意味の深さの為せる技なのだろう。平塚駅から3kmばかりの所に「湘南平」と言う標高200mばかりの小高い森があり、そこに「平塚・森つくりの会」を考えたい由。丁度、相模川から相模湾の河口に当たる事もあってそんな誘惑に弱い俺いらを平塚人は知っているらしい。参加の詳細は、27日に知らせると言う事だ。んで、参加仲間は、27日夜、電話頂戴。ML仲間には、メール発信するが未だ、登録していない森仲間は、須藤さんが管理しているから連絡して欲しい。T&F:0426-84-3090

甲州古道だより

相模湖町：榎本和男

徳川五街道整備：開幕400年記念行事の「甲州夢街道」で新宿から勝沼まで徒競走のように歩いた

のが私の最初の甲州街道との関わりです。昨年、「N P O 法人緑のダム北相模」が甲州古道に取り組んでいる事を知り入会しました。小仏峠から笹子峠までの古道を整備する事は、素晴らしい企画だと思います。小仏峠から笹子峠まで各地の先生からその土地の古い甲州道中や道の言い伝えをお聞きして、この街道は、歴史・芸術・伝承・伝統・文化の場所であることを改めて感じました。

この甲州道中の沿線は平地が少なく産業に恵まれていませんが、国道20号線、JR中央線、中央高速自動車道が通り交通には恵まれています。これも甲州古道があったこそなればと思われます。相模湖の出現により桂川による船の運搬も無くなっています。古道は分断され、数少ないかも知れませんが、ところどころに面影を残す場所もあります。

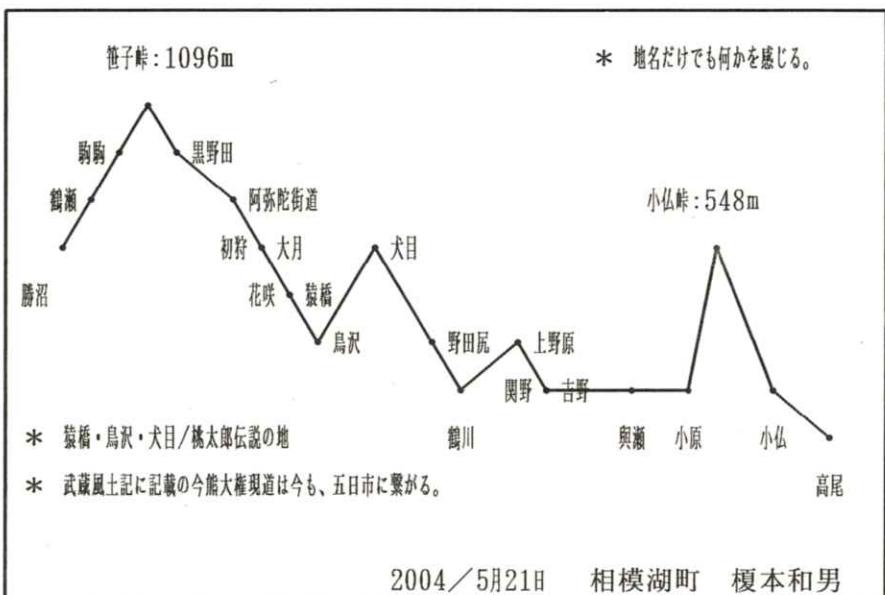
昔は、人々は各宿駅を歩いていたので各地の文化を持ち寄ってきました。宿も各々、独自の文化を持ち他宿に負けないように切磋琢磨していたと思います。現在の交通の発展した時代は単に通過点となり、地域で生活の糧をえていた水は少なくなり、培われてきた宿固有の文化がなくなる恐れもあります。

新聞に、現代の都会人は消毒の行き届いた畜舎で栄養の行き届いた飼料で飼育されている家畜に似て、自然と生物の成長の過程を知らない書いておりました。また、古いお寺や民家は必ず清水が近くにあるところに建てられています。この水が生活するための何よりも大切な資源だと考えます。

甲州夢街道の「夢」は黒沢明監督の最後の作品「夢」と同じだと思いました。確か、公害の無い社会で、老・壯・青・幼 それぞれ助け合って生きて行く映画だと記憶しています。

都会の人々が山紫水明な命の源である水源地に足を運んで貰い、先人の築いた中央道の元となった山道を復活し、都会の人々に癒しと心の選択の場所になればと思うと同時に、自然と文化及び水源を守って来た人々に感謝し、平地に恵まれないこの地の文化を知って貰い、熊野古道や秩父めぐりのようになれば良いと思います。この甲州古道「夢街道：復活事業」を企画し実施している「N P O 緑のダム北相模」に感謝し、この輪を広げれば「甲州古道メガロポリス（数個の地域の結合した地帯）」が出来ると思います。

神奈川県では、水源環境の保全再生に取り組んでいますが、古道復活は都会の人々に水源の森の大切さを知らせるだけでなく、この生活地域の環境を良くするものです。



中里先生の連載は今月、お休みです。

1) 7月3日(第一回) 森林整備

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…

そして、沢山のご意見、参加下さい。

2) 7月18日(第三回) 里山交流

名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)

3) 臨時：7月1日～5日：

事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 石村

平塚七夕応援

T & F 03-3411-1636

協働団体／セブン－イレブンみどりの基金

\* HP : <http://www008.upp.sp-net.jp/kitasagami>

支援団体：WWFジャパン、損保ジャパン環境財団、イオン財団、日本財団、住宅生産団体連合会